

シングルレバー混合水栓

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

SF-HB420SYX型 SF-HB442SYX型
SF-HE420SYX型 RSF-541Y型
SF-HE421SX型 RSF-542Y型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意 ... 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

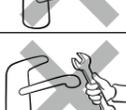
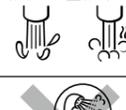
 ... 「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

 ... 「してはいけません!」(一般的な禁止記号です。)

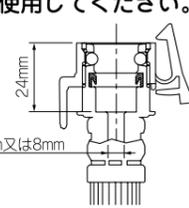
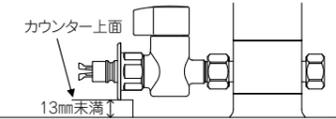
 ... 「分解してはいけません!」(分解禁止)

 ... 「指示通りにしなさい!」(一般的な行動指示記号です。)

注意

	水道水及び飲用可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。 ※飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の品質基準に適合する水をいいます。	
	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。	
	給湯器の温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
	修理技術者以外の人は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
	フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
	【分岐止水栓、分岐口付きの場合】 分岐以外の目的で分岐フタをはずさないでください。 ※漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
	【分岐止水栓、分岐口付きの場合】 分岐止水栓や分岐フタを取り付け、取り外す際には、必ずシンク下の止水栓、または元栓を閉じてください。 ※漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
	【分岐止水栓、分岐口付きの場合】 分岐止水栓や分岐フタを取り付けた後は、接続部から漏水がないことを確認してください。 ※家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
	【分岐止水栓、分岐口付きの場合】 分岐器具をご使用にならない場合は、必ず分岐ハンドルを閉じてください。 ※漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
	【寒冷地用の場合】 水抜栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
	【寒冷地用の場合】 お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は、水を抜いておいてください。 寒冷地用の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	

注意

	【分岐止水栓付きの場合】 給水ホースについて ・分岐止水栓の分岐止水栓継手は、日本電機工業規格(JEM 1206)のカブラー接続に準じています。 ・分岐器具の給水ホースは、日本電機工業規格(JEM1206)品を使用してください。(目安となる寸法は、給水ホース継手内部の深さは24mm、給水ホース継手奥の内径6mm又は8mmです。) ※上記以外の給水ホースでは異音や漏水、吐水できないなどの恐れがあります。 ※分岐口付きの場合、別途分岐止水栓を用意してください。(取扱説明書P10参照)	
	【分岐止水栓付きの場合】 水栓取付面とカウンター上面との段差が13mm以上あると、分岐止水栓が取り付けられません。	

本製品の仕様と条件

使用最高温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】	0~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。
	【寒冷地用】	-20~40℃	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	0.05MPa(流動時)~0.75MPa(静水圧) 給水圧力≧給湯圧力 (※2)		

- ※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の品質基準に適合する水をいう。
- ※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器(比例制御式：16号相当)と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.05MPa(流動時)	※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
	A+0.06MPa(流動時)※SF-HB420SYX(N)B型	
最高圧力	0.75MPa(静水圧)	

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開。 ●給水温度5℃、吐出温度42℃。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動時の圧力です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温度です。

貯湯式給湯器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa(流動時)	最高圧力	0.75MPa(静水圧)
--------	--------------	------	--------------

●給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。
●給湯圧力は水栓直前における流動時の圧力です。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具類

- 水栓本体の取付けにはプラスドライバー、スパナ(呼び8,24)、モンキーレンチ(呼び250以上)が必要です。
- 分岐止水栓付きの場合、施工後の調整に給水ホースが必要です。
※安全上のご注意「給水ホースについて」の項を参照ください。

止水栓と点検口を設けてください。

- 取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために**流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

補強材を使う場合

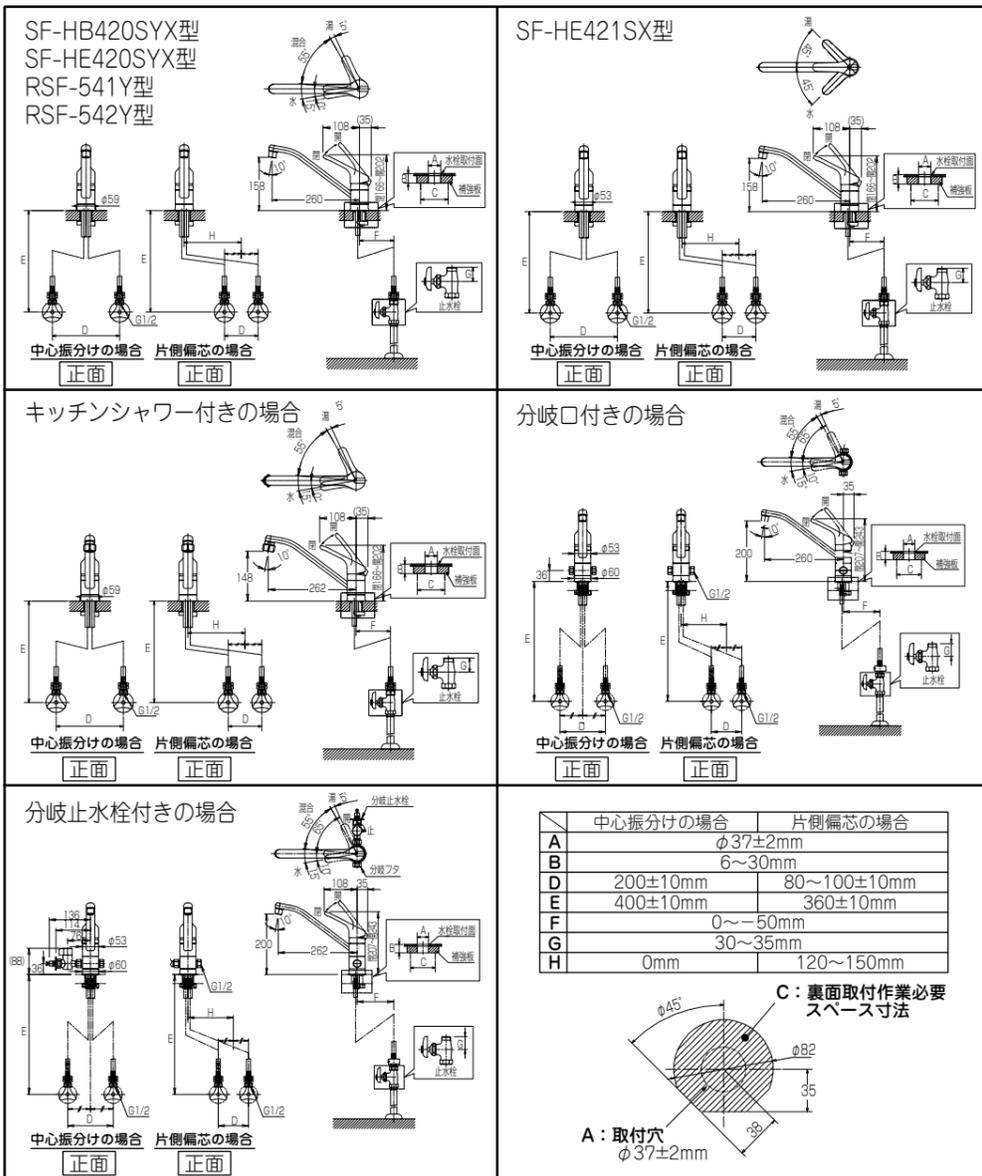
- カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。
やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売のA-3811を使用して取り付けてください。

その他の注意点

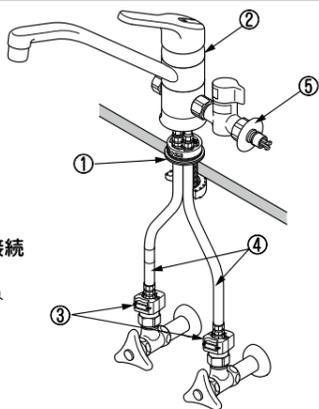
- 給水は上水道に接続してください。
※温泉など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 商品の表面には、直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください**。

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。



施工手順

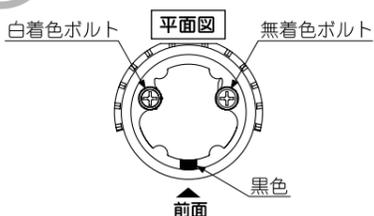


- ① 上面施工金具の取付け
 - ② 水栓本体の取付け
 - ③ ソケットと止水栓の接続
 - ④ 給水ホース・給湯ホースの接続
 - ⑤ 分岐止水栓の接続
- ※分岐止水栓付きの場合のみ

2. 施工方法

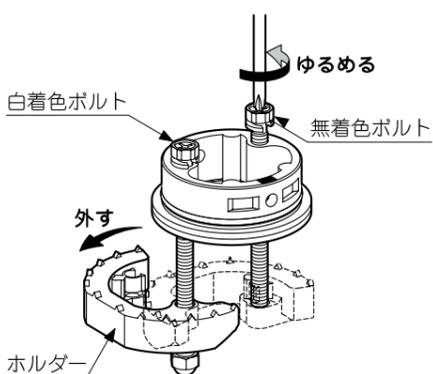
以下の手順通り、正しく取り付けてください。

1 上面施工金具の取付け

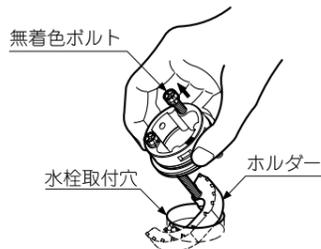


注意 上面施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因となります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。

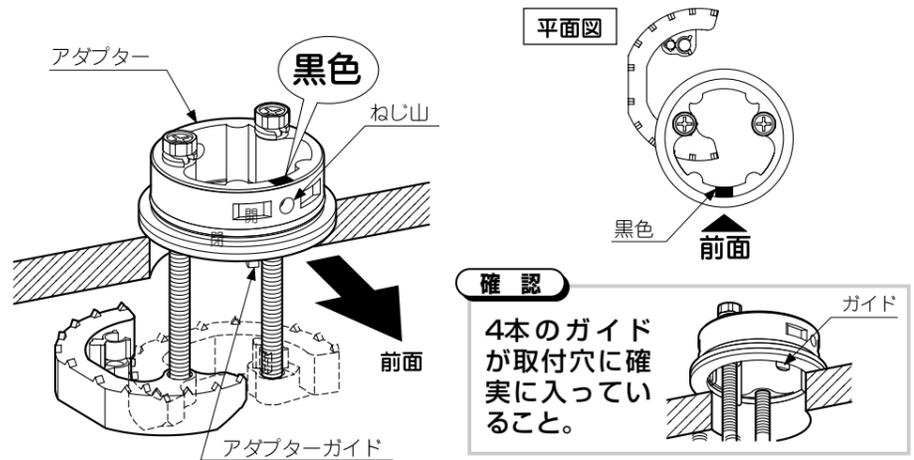


2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。

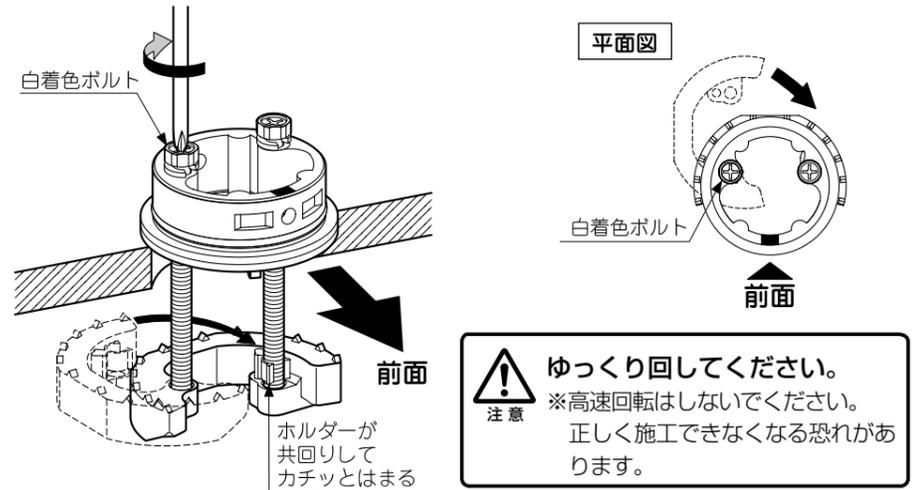


ポイント
●無着色ボルトは引っかけられないように少し引っ張り上げておく。
●ホルダーがカウンター裏面の障害物に引っかかり、正しい位置に取付けできない場合は、白着色ボルトを数回左右に回してください。

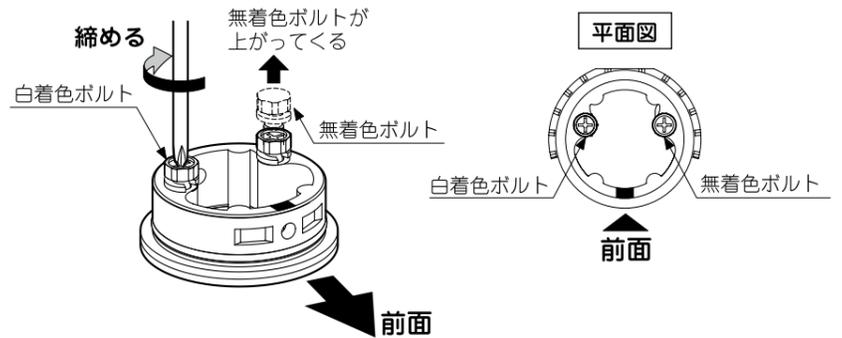
3. アダプターの黒く塗った部分が前方を向くように位置決めをする。



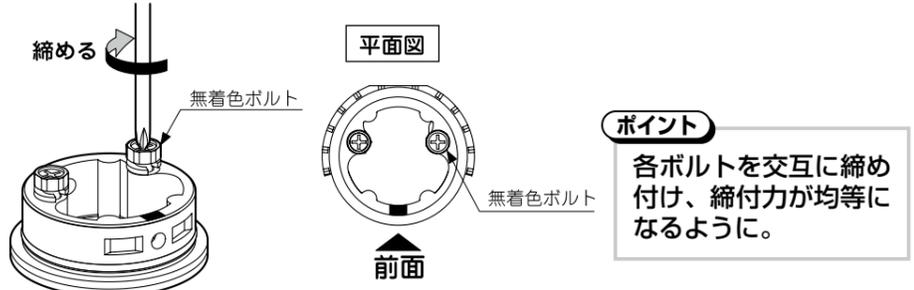
4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。



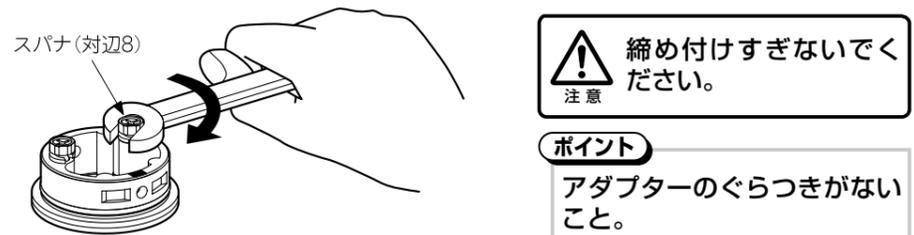
5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。



6. 無着色ボルトをしっかりと締める。

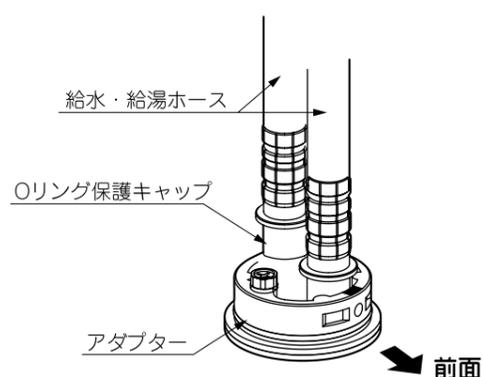


7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回転程度増締めする。



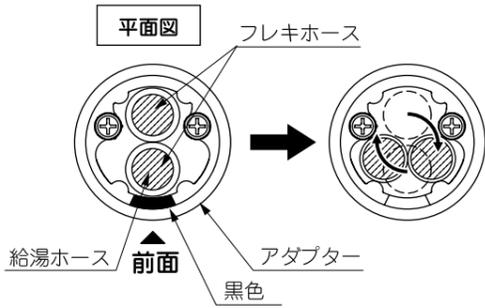
2 水栓本体の取付け

1. 給水・給湯ホースの先端を横並びにし、さらに上下にずらしてアダプターに挿入する。



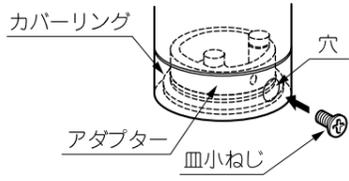
注意
●先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※リングに傷がついたり、ゴミがかみ込むことで、漏水の原因になります。
●横並びにただけでは、給水・給湯ホースの先端がアダプターに干渉し挿入できません。

2. フレキホース先端がアダプターとホルダーを通過したら、フレキホースを正規の位置に回転させる。



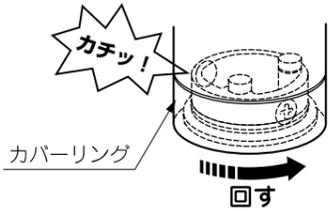
注意 水栓全体が回転可能となる前に無理に回さないでください。
※給水・給湯管等が破損し、漏水の原因となります。しく施工できなくなる恐れがあります。

3. カバーリングの穴、水栓本体の穴、アダプターの穴の全てをそろえて皿小ねじで固定する。



確認 水栓本体にぐらつきがないこと。

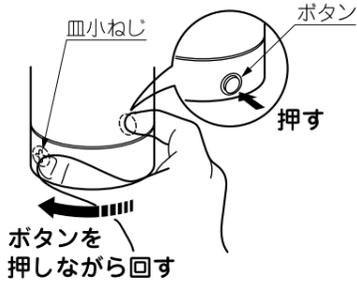
4. カバーリングを180°回転させ、穴を後ろに回す。



ポイント カチッと音がするまで回す。

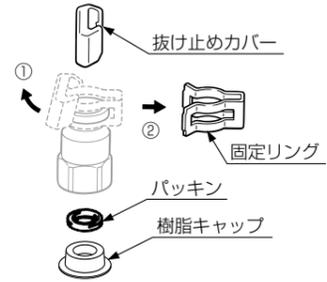
〔水栓本体の取り外し方〕

1. カバーリング背面のボタンを押しながらカバーリングを180°回す。
2. カバーリングの穴の位置を皿小ねじに合わせ、皿小ねじを外し、本体を抜く。



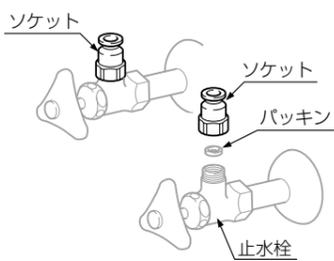
3 ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー、固定リング、樹脂キャップを取り外す。



注意 パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

2. ソケットを止水栓に固定する。



注意 締付けは、ソケット本体に工具を掛けてください。
※ソケットカバーを持って締付けたり、工具を掛けると、破損し、漏水の原因になります。

注意 ●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。

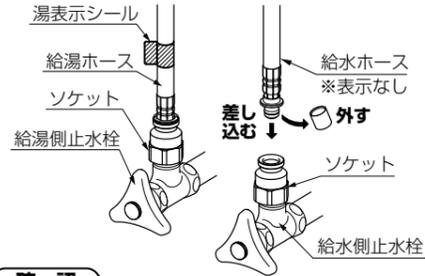


●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。
※水栓金具や工具が破損する恐れがあります。



4 給水・給湯ホースの接続

1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。

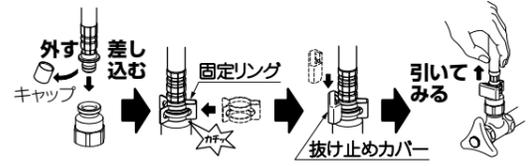


ポイント ホースが挿入しにくい場合は、ハンドルを開けた状態で施工する。

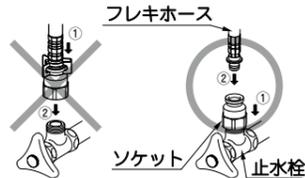


確認

ホース差し込み後、給水・給湯ホースを上引っ張って、抜けない事を確認する。
※固定リングと抜け止めカバーを確実にはめ込む！
※ホースを上引っ張って、抜けない事を確認する！

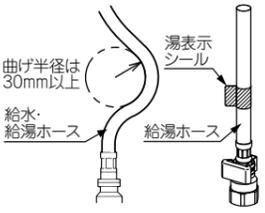


注意 ●必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。
●Oリングに傷をつけたりゴミかみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。

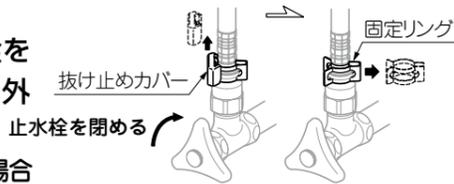


給水・給湯ホース接続時の注意事項

注意 ●ホースを曲げる場合は、曲げ半径30mm以上確保しホースを折らないようにしてください。
※漏水や流量低下の原因となります。
●ホースを無理に引っ張ったり、ホース外層に傷がつくような接触は避けてください。
※漏水や故障、ヤケドの原因となります。
●給湯配管には、給湯ホースのみ接続してください。
※漏水や故障、ヤケドの原因となります。

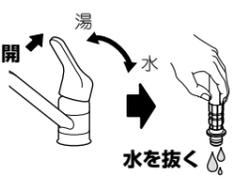


2. 給水・給湯ホースを外すときは止水栓を閉め、抜け止めカバー、固定リングを外してホースを上引く。



一度外した給水・給湯ホースを再接続する場合

注意 ●湯側・水側のハンドルを開け、ホースから水を抜いてから実施してください。
※正しく施工できなかったり、漏水の原因となります。
●④-1の確認項目や、ポイントも必ずご確認ください。
※漏水の原因となります。



分岐止水栓付きの場合

5 分岐止水栓の接続

分岐止水栓付きの場合は分岐止水栓(LF-3SQ-13F)に同梱の施工説明書に従い、水栓本体に接続してください。

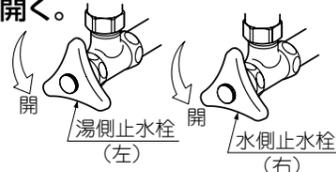
3. 施工後の調節

以下の手順通り、正しく調整してください。

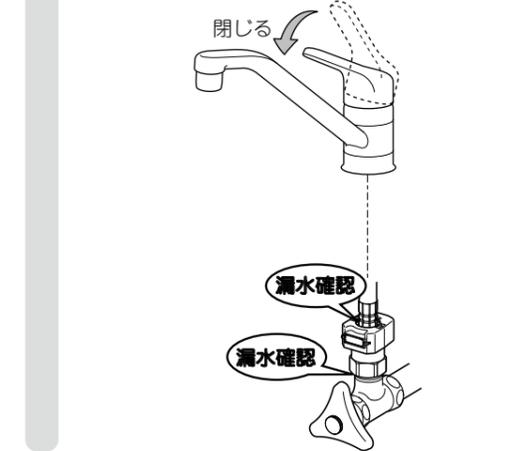
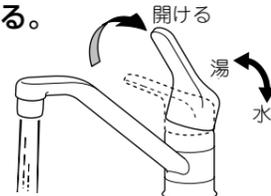
1 通水確認

通水確認を以下の要領で行ってください。

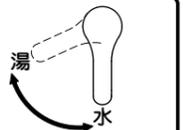
1. レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水・給湯の止水栓を開く。
2. 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。
3. レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。



2. 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、通水確認する。



注意 高温に注意してください。
※レバーが湯側になっていると不意に高温の湯が出てヤケドをする恐れがあります。

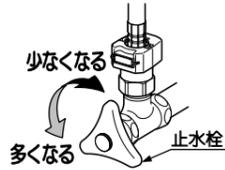


流量の調整

注意 水圧が0.2MPaを超える場合は、水側の流量を調節してください。
※水栓の機能が十分に発揮されません。

1. レバーハンドルを全開にする。

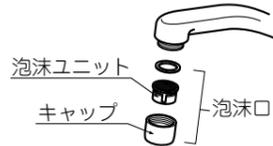
2. 湯と水の流量が同じになるように、水側の流量調節栓を調節する。



3 泡沫口・ストレーナの掃除

泡沫口の場合

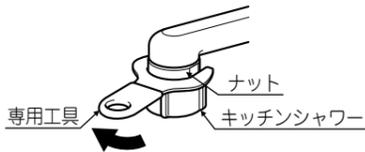
手でキャップを回して泡沫口を取り外し、泡沫ユニットを水で掃除してください。



キッチンシャワーの場合

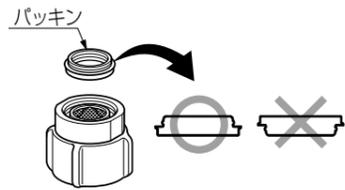
1. 同梱の専用工具でナットを回し、キッチンシャワーを外す。

2. キッチンシャワーのストレーナを掃除する。

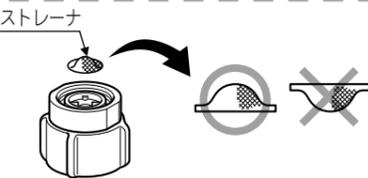


- ナット以外の部品に、専用工具を掛けしないでください。
- キッチンシャワーを落とさないよう注意してください。
※破損したり、キズがついたりする恐れがあります。
- 水を出し過ぎないでください。
※水が飛びはね、衣服を濡らす恐れがあります。

●キッチンシャワーを外す際、パッキンが外れたり、吐水口の内部に残ってしまう場合があります。この場合は、パッキンの向きに注意して取り付け直してください。
※向きが正しくないと、吐水口に取り付けられなくなります。



●ストレーナがキッチンシャワーから外れてしまった場合は、向きに注意して取り付けてください。
※向きが正しくないと、ゴミが詰まりやすくなり、流量が少なくなる場合があります。



3. キッチンシャワーを吐水口に取り付ける。

- 同梱の専用工具以外は使用しないでください。
※キズがついたり、締付け不足となる恐れがあります。

- ナット以外の部品に、専用工具を掛けしないでください。
※破損したり、キズがついたりする恐れがあります。

ポイント

キッチンシャワーが回らなくなるまで手でねじ込み、その後、専用工具でナットを1/4回転（締付けトルク約3N・m）増し締めする。

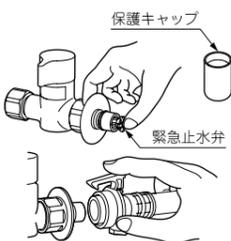
パッキン、ストレーナの向きに注意して取り付けてください。

分岐止水栓付きの場合

4 水出し確認

- ・水出し確認は、分岐ハンドルが「とじる」方向に止まるまで回っていることを確認してから行ってください。
- ・水栓の機能を十分発揮させるため、水圧が0.2MPaを超える場合は、シンク下等の止水栓を絞って調節してください。

1. 分岐止水栓継手には、カプラーが外れても水を止める機能(緊急止水弁)がついています。指で軽く押せるかを確認してください。
※保護キャップが付いている場合は保護キャップを取り外してください。



2. 分岐器具に付属の給水ホース継手を接続し、分岐ハンドルを「ひらく」方向に止まるまで回し、漏水していないことを確認してください。
※確認後は分岐ハンドルを「とじる」方向に止まるまで回してください。

注意 分岐器具の給水ホースは、必ず日本電機工業規格 (JEM1206) 品を使用してください。
※上記以外の給水ホースでは、異音や漏水、吐水できないなどの恐れがあります。

4. 引渡し前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か?	—	「本製品の仕様と条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。
	ゴミ詰まりはないか?	①⑥	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	ゴミかみはないか?	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか?	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか?	③	固定ナットを締める。 締過ぎるとレバーハンドルが重くなる場合がありますので注意してください。
希望の温度が得られない	圧力は十分か?	—	「本製品の仕様と条件」の項参照。
	流量調整はよいか?	—	「流量の調節」の項参照。
	ゴミ詰まりはないか?	①⑥	ゴミ等を水で洗い流す。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか?	⑤	ねじをしっかり締める。
ハンドルがガタつく	ゆるみはないか?	④	ねじをしっかり締める。
キッチンシャワーがゆるむ・ガタつく	ゆるみはないか?	⑦	ナットをしっかり締める。
吐水しない	日本電気工業規格 (JEM 1206) 適合の給水ホース継手を使用しているか?	—	安全上のご注意「給水ホースについて」の項を参照。
分岐流量が少ない	圧力は十分か?	—	「本製品の仕様と条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	分岐ハンドルは十分開いているか?	A	分岐ハンドルを「ひらく」方向に止まるまで回す。
水が止まらない	水栓と分岐器具から同時に吐水していないか?	—	水栓が分岐器具のどちらかを閉じる。
	ゴミかみはないか?	B	ゴミ等を水で洗い流す。
分岐止水栓から異音がある	日本電気工業規格 (JEM 1206) 品のホースカプラーを接続しているか?	—	安全上のご注意「給水ホースについて」の項を参照。
分岐接続部から漏水する	分岐フタ、袋ナットのゆるみはないか?	C	分岐フタ、袋ナットをしっかり締める。
	ゴミかみはないか?	B・D	ゴミ等を水で洗い流す。

